

青風

あ お



新潟県議会議員

青柳まさし

VOL.9

新潟県議会2019年9月定例会報告

新潟県議会9月定例会が9月24日から10月11日まで開会され、行財政、福祉・医療など幅広い議論が展開。令和元年度一般会計補正予算、議員発議による条例などが可決されました。

本議会において、自由民主党の青柳まさし議員は9月27日に一般質問し、

- 1 行財政改革について
- 2 健康立県について
- 3 農林水産関連施策について
- 4 港湾・空港関連施策について
- 5 県政の諸課題について

の5項目について、花角英世知事および関係執行部に答弁いただきました。その一部を抜粋して報告します。



1 行財政改革について

Q 行財政改革は、県民に「痛み」と「我慢」を強いるものだ。県民に丁寧な説明を行い、理解を得ながら進めなければならぬ。県からの一方的な広報・周知に留まらず、例えば知事が県民と直接語り合い理解を求めるなど、知事が県民の意見に耳を傾け、直接メッセージを発信する機会をつくる必要がある。

答弁要旨

行財政改革に関する行動計画(案)は、私からのメッセージも含めて策定した。現在実施しているパブリックコメントにおいて県民の皆様からさまざまな意見をいただきたいと思っている。また各種団体等との意見交換の場や、セミナー、シンポジウム、講演会などで県民に理解を求め、意見を伺っていく。



行財政改革有識者会議で「今後急激に公債費の実負担が増加していくことについて新潟県の最大の課題と認識し、強い危機感を行政だけでなく議会や県民も持つべき」とされた。そうした認識は必要だが、県経済を必要以上に委縮させることが懸念される。大幅な歳出削減を行えば影響があるのではないか。

答弁要旨

今後の歳入改革の実施は、単に事業費を削減するという縮み志向に陥ること

く、より大きな効果が得られる事業の執行方法や仕組みの見直しなど、前向きな創意工夫をしながら取り組む。また国庫補助金の積極的活用、一般財源の負担を減らしつつ事業量を維持するなど県内経済への影響にも最大限配慮していきたい。

2 健康立県について

Q 健康寿命の延伸には、がん検診受診率向上による早期発見・早期治療が重要だが、検診に痛みや放射線被ばくが伴うことや煩わしさなどが課題だ。県は受診率向上に向けて、どのように取り組んでいくか。

答弁要旨

本県の受診率は全国トップクラスの水準にあるが、ご指摘のとおり一層の環境整備が必要だ。正しい知識の啓発に取り組むとともに、ヘルスプロモーションプロジェクトを通じて、関係機関や健康経営推進に取り組む企業などと連携し、さらなる受診率向上を図り、健康立県の取り組みを推進していきたい。



Q スポーツやレクリエーションを通じた健康づくりは、健康寿命延伸や医療費抑制とともに、高齢者の孤立予防にもつながる。また生涯スポーツに取り組む際は、体の状況を把握することが重要だ。簡単にできる体力チェックとして県レクリエーション協会考案の「レク式体力チェック」が有効ではないか。

答弁要旨

この社会実験は、農業に関心のある市民の参加を得て農地を保全する仕組みづくりを目的に、平成29年度から3カ年計画で実施している。最終年度である今年度において、課題の洗い出しと検討を行い、今後は見附市での取り組みの定着と、他地域への取り組みの拡大につなげていきたい。

3 農林水産関連施策について

Q 県では、中山間地域の新たな保全管理手法の検証を目的に、見附市で市民参加による農村保全の社会実験を進めている。担い手不足の農家に代わり、市民が楽しみながらコメを生産する「楽農」により農地を保全する仕組みづくりで、二つの施策の方向性を示す。今後の展開を伺う。



ご指摘のとおり、スポーツは健康の保持増進や運動能力の向上に寄与するとともに、仲間との触れあいや地域の連帯感を育む。「健康立県」の実現のために大きな意義がある。自分に合ったスポーツやレクリエーションを無理なく楽しむには、自身の体力を把握することが重要だ。「レク式体力チェック」は誰でも簡単に実施でき有効と考える。

答弁要旨

Q 農林水産省は農福連携を支援するため、障害者の特性などを就労先の農家などに助言する農業版ジョブコーチの仕組みを、来年度、全国共通の枠組みで構築するとしている。この取り組みに対する知事の所見と、県の今後の対応について伺う。

答弁要旨

障害者の円滑な就労に資すると思われる。県としては、今後、関係省から情報収集するとともに、障害者の農業分野での就労促進に向け円滑な導入を図られるよう、関係機関・団体と検討していきたい。

4 港湾・空港関連施策について

Q 埼玉県熊谷市に新潟東港の利用を想定したインランドポートを設置する構想が検討されていると聞く。新潟東港の活性化策として重要なオン・ドック・レール構想の実現に向け、課題である輸出入貨物の確保に寄与するものと考えているが、知事の所見を伺う。

答弁要旨

インランドポート構想は現段階では民間ベースの構想で、具体化に向けては行政、関係事業者等との調整も含めさまざまな課題がある。一方で、北関東圏で新たなインランドポートが設置されると、東港オン・ドック・レールで課題となっている中長距離の輸送で、かつ新潟港利用の鉄道貨物の掘り起こしに寄与する可能性がある。県としては情報収集を進めながら、荷主企業等へのポートセールスに取り組み、オン・ドック・レールや航路の改編・誘致につなげていきたい。

Q 新潟港の利用拡大を図るため、7月に東京都内で新潟港利用のメリットやインセンティブ制度を紹介するセミナーを開催した。知事のトップセールスは2年連続だが、手応えや成果、今後の展開について伺う。

答弁要旨

新潟港の優位性をセールスし、新潟港に対する期待や注目度の高まりを直接感じてきた。これまで同セミナー参加を契機に利用を開始した事例も増加しており、更なる貨物の取り込みの可能性があると考える。県として荷主企業等へのフォローアップを行い、セミナーでの意見や要望を踏まえ、引き続きトップセールスを行い、拠点化の推進につなげたい。

Q 新潟空港へのアクセス改善に向けた実証実験として、9月から会津若松―新潟線高速バスの新潟空港への延伸と、長岡駅から新潟空港への高速バス早期便の運行が行われている。アクセス改善に向けた知事の所見を伺う。

答弁要旨

目標の空港利用者数135万人に向けて、さらなる取り組みが必要だ。昨年度は空港から観光地等への二次交通を4路線整備し、今年度も9月から新たなバス運行を開始、年内には空港定額タクシーの取り組みも始める予定だ。県方針の「新潟空港アクセス改善の基本的考え方」に沿って取り組みを進め、その効果を検証しながら空港の利便性向上に努めていく。



5 県政の諸課題

Q 7月のロシア極東訪問で、知事は現地の要人を招いた交流会を主催した。交流会では経済交流や人事交流、日ロ間の新規輸出入に関する荷主や物流業者の誘致などが話題になった。この交流会の知事の所感を伺う。

答弁要旨

ウラジオストクにおいて初めて、官民の関係者が一堂に集まる機会を作らせていただき、有意義な意見交換がなされた。今後もネットワークを広げ強化し、新たな取り組みにつなげていきたい。なお今回の訪問では、沿海地方政府、ハバロフスク地方政府との間で、交流のロードマップの策定に合意した。具体的な成果につながるようロシア極東地域との交流を着実に進めていきたい。

Q 県では若手職員から政策提案を募り、県庁組織の活性化と優れた提案の事業化という新たな取り組みを始めた。8月24日には「県庁前ナイトマルシェ」が開催されたが、現時点の受けとめと今後の進め方を伺う。

答弁要旨

若手職員からの政策提案は広範な分野にわたっている。庁内の政策議論の活性化や政策提案能力向上に資することを期待する。今後、優秀な提案は情報を共有しながら県の施策への反映を検討したい。「県庁前ナイトマルシェ」は県の若手職員が企画運営するイベントとして行われ、当日は約3500人の来場者があった。今後も柔軟な発想のもと、地域のにぎわい創出につなげるような県有施設・財産の利活用に取り組んでいく。



青柳コラム

新潟県のポテンシャルの高さを確認し 夢のある政策を進める。



県の行財政が厳しくなり県民の痛みも伴う改革が進められることで、県全体が縮み傾向になるのではないかと懸念されます。しかし、このようなときこそプラス思考で、税収を増やす施策を打ち出していかなければなりません。

いま、注目される事業が次々に計画されていることも知るべきです。新潟東港には1機30万キロワットのバイオマス発電所の建設誘致計画が進んでいますし、埼玉県熊谷市による極東アジア等への輸出入対応を狙った大きなプロジェクトが検討されています。また、新潟空港を拠点とした民間による地方空港会社設立の計画があり、実現すれば地方間の空路が充実します。県は新潟空港の利用者数135万人を目標にさまざまな取り組みを行っており、香港便が冬限定で開始され、3月からは台湾便の定期就航も決まっています。

最近の明るい話題として、ラグビーワールドカップで、我が新潟県



立工業高校の後輩でもある稲垣啓太選手が大活躍しました。実直にコツコツやるというのが新潟人らしくもあり、その中でトライを決めた瞬間は本当に素晴らしかったです。ポテンシャルを高く持って努力すれば花が開く。子どもたちにも夢を与えてくれました。

我々も新潟県の宝、新潟県のポテンシャルの高さを認識し、将来に向け夢のある取り組みを進めていきたいと考えています。

お気軽に
お立ち寄り
ください!!

青柳まさし 事務所

〒950-3325 新潟市北区白新町3丁目9-9

電話: 025-386-8682

ファクシミリ: 025-386-8704

青柳まさし

<http://m-aoyagi.net/>
現所属委員会/常任委員会
特別委員会

検索

厚生環境委員会 委員長
普通会計決算審査委員会 副委員長
県民所得アップ対策委員会